

[dōk]

どんく

発行

三重日仏協会

SOCIÉTÉ FRANCO-JAPONAISE DE MIE

事務局 津市東丸之内21-4 オーデンビル

3F / Siège : Oden Building 21-4 Higashi-

Karasouchi Tsa JAPON ☎0592 (26) 3159

創刊号

N° 001

1er AVRIL

SOCIÉTÉ FRANCO-JAPONAISE DE MIE

県の国際化に一役

民間の三重日仏協会が発足

通訳養成や案内書作成

民間レベルの国際交流を旨とした。世界祝祭博（六十九年）に伊勢・鳥羽で開催予定の指す三重日仏協会の設立総会が七日、津市内のホテルで開かれた。世界祝祭博（六十九年）に伊勢・鳥羽で開催予定の指す三重日仏協会の設立総会が七日、津市内のホテルで開かれた。世界祝祭博（六十九年）に伊勢・鳥羽で開催予定の指す三重日仏協会の設立総会が七日、津市内のホテルで開かれた。

日本人の自然観



記念講演をするオーギュスタン
・ベルク学長＝県立美術館で

大会（六十四年津市で開催）などを控え、ボランティア通訳の養成や仏語ガイド書の作成を通じて本県の国際化に一役買う。

会長に武田氏

設立総会には会員ら約五十人が出席、月一回の仏映画会上映やペタンク大会、会報「どんく」の発行、仏会話教室の開催など事業計画を決定、会長に武田進三重大学学長、副会長に雲井洋百五銀行副頭取ら役員を選んだ。岡村初博津市長も来賓として出席、今後の活動への期待を述べた。

日本人の自然観

オーギュスタン・ベルク氏

ただいま紹介していただいたBERQベルクです。きょうの講演の演題は「日本人の自然観」という、とても広いテーマですが、その中でも現代都市の環境とアメニティの問題について絞ってお話したい。

日仏会館は東京のお茶の水にあります。その向い側は風致地区で一つの名所というか緑地があり山のようになっていて、川は深い谷の下を流れています。

〔原風景としての神田川〕

神田川は水も汚れ、逆上る船もなく今はきれいではありませんが、そのイメージは人々の中に残っています。70年代に流行した南こうせつの「神田川」という有名な歌を覚えていませんか。その歌がはやっていたころ私はその川のそばにいました。

その後、フランスに帰国しましたから二十年近く昔の話ですが、私にとっては「原風景」という気がします。

「原風景」というと、なにか大げさですが、連想とかイメージのプリズムを通して神田川を見る。川そのものでなくプリズムを通して見えるもの、これはameniteの問題に深く関わっています。

アメニティ (英amenity) は日本語では「快適性」と訳され、もっぱら(道路や公園など)社会的な施設に用いられますが、もともとは場所の良さ、居

心地の良さという広い意味を持ちます。

〔日仏会館の学術研究〕

日仏会館は日仏間の学術交流の機能を持ち、フランス人研究者がいて共同研究もやっています。今は「都市の環境」を取り上げ、これはもちろんアメニティと関係しています。私は休日を利用して神田川のほとりをよく歩きます。上流は井之頭公園まで、川下では隅田川までたびたび行きました。

この川には芸者さんのいた柳橋をはじめ多くの橋があります。すべての橋を渡ったと思いますが、私にとって印象的だったのは川の流れそのものでなくて、むしろ周辺の町並の方でした。

現在の川のほとりには「親水感」が感じられません。それは、あまりにも人の生活からかけ離れているからです。確かにその川沿いには「アメニティ」と呼ばれている、自転車歩道のような施設がありますが昔のような川辺りに家が並んでいる風景は見られません。川に面した庭に植えられたカキの木の枝、窓からはふとんが出ている—そんな光景には親しみがある。その方が「住みがい」があるような気がしますし、逆に歩行者道ができたところは親しみがない。

神田川風景



これは町の快適性の基本的な問題だと思います。しかし、現実には複雑な要素がからみあい、適切なsolution（解決法）を見つけるのは非常に困難です。アメニティ問題は単に施設の良し悪しでなく社会全体の問題だからです。

神田川の歩行者道を歩いている川を楽しめないのは、川の流れそのものが深い溝になっていてコンクリートの壁があり鉄サクがあります。もちろん洪水を防ぐためにも子供が落ちないためにもそれらの施設は必要なのです。

だからといってアメニティの問題が後回しにされるのはまずく、なにか良い方法を見つける必要があります

問題は（社会の中での価値判断という）標準＝座標です。

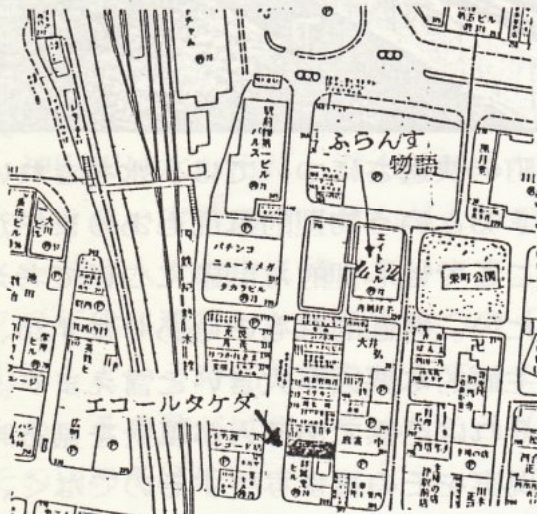
町の快適さについては、水をきれいにするという物理的な面もありますがここでは心理的な問題について考えたい。客観的なものもありますが、主観的な要因が大きいと言えます。それは座標である人が風景を見る時現実をそのまま写生するのではなく、たくさんのイメージを通して連想し余いんの中に見ているからです。

「風土」という言葉に私は興味を持っています。「風土」は自然環境と理解されていますが、和辻哲郎は「環境と違う、環境と主体との間に出来るものが「風土」だと定義しています。和辻の言葉では「風土は人間存在の構造契機」です。

（以下次号に続く）

PETANQUE

★・・フランスのボールゲーム「ペタンク」の講習会を5月10日(日)午前11時から津市羽所町(津駅東口駅前)の喫茶店ふらんす物語の前にある小公園で開きます。講習に続き練習試合を行い優勝チームには賞品を出します。午後1時30分から近くのエコール・タケダで仏映画会(英文字幕)を予定しておりプログラム選考中です。参加料500円(会員300円)＝飲み物代＝



★・・フランス語教室(一期4~6月)は津市東丸之内、オーデンビル3階で14日から始まりました。フランス語専門校リエゾンとの共催で講師はクリスチヌ・アブリルMlleまたはレミ・ゴザレスM、大阪の本校から派遣されてきます。毎週火曜午後5:30~6:30、6:30~7:30、7:30~8:30の3コースでそれぞれ中級、初級、上級に分かれます。初級クラスには入門コースがありフランス人講師への橋渡しを運営委員の武田治美さんが務めます。

授業料は3カ月3万円(前納)会員は入会金2千円が免除される。

津市以外の四日市市、伊勢市でもフランス語教室が開催できないカリエゾンと検討しています。会場と時間(希望者の数がまとまる)の問題が解決すれば可能性はありそうです。

★・・三重県観光国際課の刊行した英文ガイド「MIE」のフランス語版をつくる作業を進めています。英文の説明文を仏語訳するボランティアを募っています。現在、12人が参加当協会顧問のC・アブリルさんが監修して年内完成を目指します。

連絡は5月19日までに運営委員の喜田紘美さん＝☎0592(26)8088、pm6~9へ。

英文例

▼ Senjuji Temple (8)

This is the head temple of the Shinshu sect's Takada School. Its grounds cover 10 hectares and include a number of valuable cultural assets, such as a huge wooden pavilion and a garden with a tea arbor created by tea masters Doan Sen and Yurakusai Oda, under the orders of the Shogun, Hideyoshi Toyotomi. The main memorial services in January draw huge crowds of devotees. (Ishinden-cho, Tsu City)

